

令和6年度 全国学力・学習状況調査  
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立五箇小学校長

令和6年4月18日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数の2教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	67.7%					○
算数	63.4%					○

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	64.4%					○
情報の扱い方に関する事項	86.9%	○				
我が国の言語文化に関する事項	74.6%					○
話すこと・聞くこと	59.8%					○
書くこと	68.4%	○				
読むこと	70.7%					○

【考 察】

- 4領域で全国平均を上回りました。特に「話すこと・聞くこと」の領域において、「目的や意図に応じて、日常生活から話題を決め、伝え合う内容を検討する」問題と「資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」問題の正答率が高く、授業で行っている、めあてに対する自分の考えを、資料等を活用して友達に伝える活動が、話す・聞く力の定着につながったと考えられます。
- 「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」の領域において全国平均を下回りました。特に、「書くこと」の領域において、「事実と感想、意見とを区別して書く」ことに課題が見られました。今後は、授業の中で、自分の考えの根拠を書くことや、友達と書いた内容を推敲することなどの活動を取り入れ、課題の改善に取り組みます。

【算数：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	66.0%					○
図形	66.3%					○
変化と関係	51.7%					○
データの活用	61.8%					○

【考 察】

- すべての領域で、全国平均を上回りました。「変化と関係」の領域では、論理的な思考力を見る記述式の問題で高い正答率となりました。授業の中で、自分の考えを図や式に表し、友達と交流する活動や、なぜその式が立てられるのかを自分の言葉で説明する活動を取り入れたことが論理的な思考力の育成につながったと考えられます。
- 「図形」の領域では、球がぴったり入る立方体の体積を求める問題において、立方体の体積を求める公式は理解できていましたが、立方体の一辺の長さを見つけることができず、誤答になるケースが見られました。今後は、学習内容を日常生活の事象と関連付けて活用できるような応用的な学習を取り入れながら指導していきます。

**令和6年度 全国学力・学習状況調査  
質問紙調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立五箇小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
小	全 国	30.3	50.4	16.2	3.1
6	五箇小	16.7	83.3	0	0

(単位 %)

**【考 察】**

- すべての児童が肯定的な回答をしました。学校では、一度自分で考えてから友達と交流するなど、分からないことを一度自分で調べて考えることを大切にして指導してきました。今後は、友達がどのように調べているか、学び方を共有していくことで学び方の引き出しを増やしていきます。
- 身近な地域のことから児童の疑問や問いを見だし、調べ学習への意欲を高めながら、学び方を工夫し考えられるよう指導していきます。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	全 国	11.0	12.5	31.1	27.0	13.0	5.3
6	五箇小	16.7	33.3	33.3	16.7	0	0

(単位 %)

**【考 察】**

- 本校が目標としている「学年×10+10分」をすべての児童が達成できるよう、自主学習の進め方や、家庭学習への取り組み方について指導しています。そのため、学年に応じた家庭学習の習慣化が図られていると考えます。今後も家庭学習の時間の確保や習慣化に向けて指導していきます。
- より主体的に自主学習に取り組めるよう、友達の自主学習内容を紹介したり、お互いに見合ったりすることで、学習内容のバリエーションを増やし、児童の興味・関心を高められるように工夫していきます。

3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小 6	全 国	31.9	48.9	16.0	3.1
	五箇小	50.0	50.0	0	0

(単位 %)

【考 察】

- 全ての児童が肯定的な回答をしました。分かった点については、学習したことを自分の言葉で説明し、確実な定着を図ったり、分からなかった点については児童同士でどうしたら解決できるのかを考える機会を設けたりすることで、次の学習につなげていけるように今後も継続して指導していきます。
- 日々の授業の中で、以前に学習した単元とのつながりを児童に見つけさせることを意識しています。今後は、これまでの学習とのつながりを教師が見つけさせるのではなく、児童が気付き、見つけられるような問いかけを工夫していきます。

4 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば当 てはまる	どちらかといえば当 てはまらない	当てはまら ない	学級の友達と話 し合う活動を行 っていない
小 6	全 国	41.4	44.9	10.5	2.3	0.8
	五箇小	50.0	50.0	0	0	0

(単位 %)

【考 察】

- 全ての児童が肯定的な回答をしました。学校全体で「つながる学び」ができるように「聴く」こと「視る」ことに力を入れて指導しており、そのことが話し合う活動に取り組む児童の積極的な態度につながっています。今後も、話し合い活動前後での考えの変容を意識しながら学習できるように指導していきます。
- 生活場面においても友達同士で話し合いながら活動する姿が見られます。児童同士がお互いの意見を認め合いながら生活できることが、学習面での話し合い活動の活発化にもつながっていると感じます。児童同士の良いつながりが継続できるように今後も指導していきます。